

トヨコ通信

2010年5月

ホームページ <http://www.sasada-toyoko.jp/>
e-mail sanba1@sasada-toyoko.jp

発行 : 日本共産党笹田トヨコ後援会
発行日 : 2010年 5月 1日 第93号
連絡先 : 大垣市室本町5-8
日本共産党大垣市後援会
Tel 78-6865 Fax 73-8572

部内資料

民主新政権にはガッカリ、でも自民政治は嫌！ 共産党の躍進で政治を前へ



↑ 榎田恵二衆議院議員の演説

4・25共産党演説会

新政権誕生から8ヶ月、「民主党にはがっかりした」という思いの人が増えています。しかし「自民党政治には戻したくない」と。「一度、共産党の考えを聞いてみるか」という思いの人も増えています。

そのような情勢の中、25日、榎田恵二衆議院議員・国会対策委員長を迎え日本共産党演説会が岐阜市で開かれました。はじめて共産党の演説会に参加された方は、「政治には何回も裏切られているので、もう選挙に行くのはやめようと思ったけれど、共産党の演説会に出てもう一度信じてみようという気持ちになった」と話されました。皆さんの期待に応えられるよう、選挙では絶対に躍進をしなければと思いました。

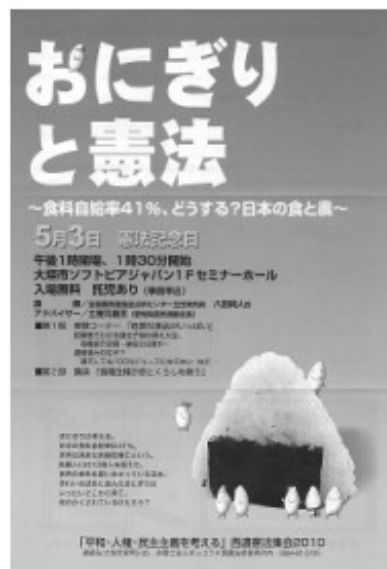


憲法集会「おにぎりと憲法」

5月3日 1時30分からソフトピアにて

5月3日に行われる恒例の西濃憲法集会、今年のテーマは「おにぎりと憲法」です。戦後日本の農業は衰退の一途をたどり、今では食料自給率41%。農地の役割は食糧生産だけではありません。自然環境の保全や、水田はダム湖の役割を果たすなど多様な機能を持っています。しかし戦後日本はなぜ食料自給率を減らし、農業破壊を犯してしまったのでしょうか。憲法集会ではそのなぞに迫ります。

→「おにぎりと憲法」のチラシ
今年是全国農民連食品分析センター
主任研究員の八田純人さんを講師に
お招きします



政治談議が花盛り



最近政治の話がおもしろく、一般の方ともどんどん話が進みます。

Aさん：普天間基地はアメリカ本土に返せばいい。でも、思いやり予算をもらって至れり尽くせりの日本から出て行かないだろう。

Bさん：思いやり予算をやめて、兵糧攻めにしたら、維持費もかかるしアメリカに帰るしかないのではないか。

Cさん：最近の政党は、政党としてのまとまりがない。少なくとも7割くらいは同じ方向で動くのが政党ではないか。

自民党の崩壊状態を見ると、今まで利権だけでつながっていたのがよく分かります。共産党は党の志を記した綱領でまとまっていますが、他党にはこういったものはないのでしょうか？

4月27日、共産党文化後援会BUNBUN倶楽部主催で女性の集いが開かれました。バイオリンとピアノ演奏で素敵な時間を過ごすとともに、私と神戸町議の鈴木さんで今の政治情勢や共産党について語りました。





医療費値上げの根本問題にメスを！

医療が必要でも保険証がなくぎりぎり我慢して、手遅れになる人が増えています。全日本民医連は「経済的理由で受診が遅れ、死亡に至った事例」の調査結果を発表しました。47事例の7割は無保険状態だったとのこと。失業者やパートや短時間労働の人で国保の手続きをしていない人や労働者で雇い主が脱法的に協会けんぽに加入していない人、国保加入でも滞納しているため保険証を窓口まで取りにいけない人、資格証明書が発行されている人などです。

大垣においても無保険状態の人は相当数いると推測されます。住民票を移していないため、無保険状態のまま長年過ごしている人、国保料を滞納しているため国保の窓口で保険証を取りに行くことができない人、また、子どもがいる滞納世帯に対しては、子どもには短期保険証を発行し、親に対しては資格証明書を発行している世帯が約100件（09年度）あります。



我が家の
釣鐘水仙
(シラー・カンパニユラタ)

紫かった水色の可憐な釣鐘型の花を咲かせます。秋植え球根で、耐寒性があり、植えっ放しでも大丈夫。主にヨーロッパ原産です。

昨年、大垣市の国保料が「10万円値上げ」（5人家族で年収500万円）で問題になりました。全国的にも国保財政が危機的状況に陥っており、鳩山政権もいくつかの手直しを行おうとしています。①資格証明書世帯の高校生についても短期保険証を発行する。②首切りなど非自発的失業者の保険料軽減。③負担限度額を4万円引き上げる。（59万円→63万円）④保険者の判断で応能・応益割合を設定し、「7割・5割・2割」の軽減を可能するなどです。しかし、これらは国庫負担率を増やさず、部分的な改善であり、根本解決の道筋は出ていません。



日本共産党の医療政策、

是非聞いてください

後期高齢者医療制度の廃止を約束した民主党政権は、それを4年後に先送りしました。更に65歳以上の高齢者だけの「新たな医療保険制度」を検討していますが、差別・給付制限・負担増の仕組みは今までどおり同じです。大垣市独自の制度「垣老」の存続もどうなるかわかりません。

このような状況の中、是非日本共産党の医療政策を

→ 金曜日、駅前街頭
宣伝をしています



全ての障がい児童に 放課後対策を

「民主おおがき」138号の議会だよりでお知らせした障害児の放課後対策について、説明が不十分でしたので、改めてお知らせします。

今年度予算の中で、長年要求してきた特別支援学校の児童生徒の放課後対策として「子育て支援計画」の中で新規事業が実施されることになりました。一方、大垣市の通常学校に通っている障害児童は、4年生までしか留守家庭児童教室に受け入れてもらえず、親が仕事をやめざるを得ない事例がありました。そこで、障害児だけでも6年生まで受け入れてと要求したわけですが、今の学校内には保育スペースを確保することが難しく、留守家庭児童教室だけで対応するのではなく、障害福祉全般で対応できるよう研究するというものでした。

具体的な案としては、今年度から始まる新規事業を普通学校に通っている障害児も利用できるようにしてはどうか、そのためには放課後の移手段をどうするかなど等、検討する課題がいくつかあります。しかし、同じ大垣の子どもの中で受けられるサービスに差があってはいけない、また障害あるなしに関わらず親の働く権利は保障されるべきだという観点からみれば、何らかの対策を講じるべきです。

市民の皆さんに知っていただきたいと、「後期高齢者医療制度を即時廃止し、国民みんなが安心できる医療制度へ」と題して、5月15日（土）スイトピアセンター文化会館2階会議室で、医療政策講演会を開催いたします。講師は谷本諭政策委員で、小池晃さんと一緒に共産党の医療政策を作ってきた中心人物です。是非ご出席ください。別紙チラシを参照してください。